

№ 8 「商店街振興対策事業」

担当課	(資料に基づいて事業内容説明)
委員	P 9 2 の「たがわ商人塾」は福岡県中小企業団体中央会筑豊支所の指導が入っているわけだが、この勉強会はどの程度取り組んでいるのか。
担当課	本年 (H 2 4) 8 月に始まり、2 回目を 9 月 1 1 日に行っている。その都度、開催時期を決めているが、3 回目は 1 1 月になっている。
委員	このような学習会で商店街の人が集まり、講師の話の話を聞くと。同時に横の話を聞いて勉強して、商店街の活動が広がることを期待しているが、これを実施することで、将来的に効果が出ると思うか。
担当課	若手の事業主が集まって情報交換などを行うことで、かなり若い方たちが田川を活性化したいという思いが込められているので、そのような方々は伸びてほしいと思う。
委員	私は大分の豊後高田によく行くが、行くたびに変わっている。田川もそのようになればよいと思って期待している。
委員	たがわ商人塾は、今から中心となって引っ張ってほしいという方を対象にしていると思うので、参加している人数、年齢層等を教えてほしい。
担当課	今は 1 8 名で、3 0 代から 4 0 代の半ばまでが中心となっている。
委員	基本的には情報の提供と補助金というスタンスだと思うが、他の自治体において商店街に対する支援状況は同じようなものなのか。
担当課	明確な資料がないが、似たようなものが多い。県と京築の方でもブランド開発も始まっているので、田川地区でもそのようなことができないか勉強していきたい。
委員	P 8 7 の活動実績には、「ごとうじひなめぐり、サン Q 市、さのよいガラポン抽選会」と書かれているが、商店街が行っている事業であって、市で行っている事業ではないと思うが、市で行っているものと補助をもらって振興組合で行っているものの線引きができていないので、線引きが難しいと感じる部分でもある。田川市内で商売している人にとっては、商店街だけが援助してもらえるのかという意見も出てくるかもしれない。商店街を市として活性化しなければならないのかということについて説明してほしい。
担当課	働く世代については車もあり、2 4 時間営業している施設もあり、スーパーも夜 1 0 時まで営業しているが、学生や高齢者など車を持たない方々が安全に安心して買い物ができ、集える場所が商店街に求められると思う。商店街には空き店舗が沢山あるが、生きがいつくりの講座や教室、カルチャースクール、コミュニティスペースなどとして、商店街が生きがいつくりの場、コミュニティづくりの場として、田川の活性化につながればよいと思っている。
委員	現状において交通弱者と呼ばれる方にとって、商店街が利用しやすい状況にあるのか。「シャッターが多すぎて薄暗く、怖くて通れない」という高校生の意見があった。また、商品の件に関して大手ディスカウントショップに行くと全部揃うので、まとめて買って行くと思うが、商店街が何でも揃う状態にあるのかということを考えてほしい。賑わいの中心にある田川市の方向性と伊田、後藤寺両商店街振興組合の求めている方向性というものは合致しているのか。
担当課	「街並み美術館」や「ひなめぐり」を行う等、商売だけではなく地域興しを含めた取組な

	<p>ども行っているのので、最近の動きについては活性化するような方向で目的も合致していると考えている。</p>
委員	<p>P 9 2に商店街に90万円の補助金を出して、商店街が主体的に事業展開を行っており、そのイベント開催等により、集客力の向上で一定の効果が表れたとの記載があるが、その間の商店の利益も上がったと捉えていいか。イベントをしているときは、確かに集客があると思うが、平日はお客さんもまばらで、歩いているのは高齢者が何人かという状況で、閉店の時間が早く、16時30分～17時にはだいたい閉まっている。このようなことであれば、買い物に行こうと思っても近くのスーパーに行くなど足が段々遠のいているという状況もあると思う。そのようなところについて、行政が補助金だけを与えてイベントをしてほしいということでもいいのか。行政としててこ入れしていくということも必要だと思う。その一環として「たがわ商人塾」が開催されているが、この費用は90万円の中に入っているのかということと、今後、何回か計画されているということだが、何回実施なると、この費用の件も関連してくるのではないか。</p>
担当課	<p>費用については、中小企業団体中央会が支出している。短期ですぐにできるものではないので、継続したいと思っている。とりあえず、今年度（H24）の予算しか確定していない。イベントの際の商店街の集客と利益について、店舗の利益については把握していないが、夜市などのイベントの際は沢山来てくれる。ただ、平日になると足が途絶えているのは私たちも苦慮している部分で、これをいかに平日に集う等、生きがいつくりの場所として整備していけるかということイベントへの補助金というよりは、これから継続して活性化に結びつくような補助金というものを考えている。</p>
委員	<p>P 9 4で伊田商店街と後藤寺商店街のイベントの中で、「田川工芸祭」を昨年（H23）12月に始めて開催したということで、ものづくり産業との関連があると思うが、ものづくりの企業、事業に対して空き店舗をいつでも空けてもらい、「田川にはこのようなものがある」ということをPRしていく意味でも随時開催していくことが必要。伊田と後藤寺では同じようなイベントが行われているが、「伊田でなければできない、後藤寺でなければできない」それぞれの特色にあったイベント内容を決める際に、行政として一緒に協議を行ったりしているのか。</p>
担当課	<p>伊田・後藤寺商店街、商工会議所も交えて、「賑わいを創出するためには、今後商店街がどのような方向に向かっていけばよいか」ということについて、すぐに結論は出ないかもしれないが、色々な案を出し合いながら、協議を沢山重ねてやっていこうということで、商工観光課も入って実施をしている。今のところ結論は出ていないが、進めている段階。</p>
委員	<p>イベントの補助金を出す等、様々なことをしており、効果がすぐに出るものではないというのは分かる。効果をどのように測定したいのかを聞きたい。様々な補助金の出し方があると思う。</p> <p>事業の中心は補助金なので、例えば、補助金を増額した方が効果があるとか、基盤的な環境整備に出すとか、補助金の期間を1年ではなく5年にするとか、様々な考え方があ。これでやっていこうとするには、効果をどんな風に測定するかということが鍵になると思う。今のところどんな風に効果を図っているのか、現状と今後の課題を教えてください。</p>
担当課	<p>今のところ効果は、数字に出せる形では把握していない。補助金の対象になるかどうかというところで、補助金を支出しているのので、結果については大まかな集客がどのくらいか</p>

	しか把握していない。今後については、もう少し環境整備に力を入れて先につなげられるような形で補助金を支出していきたい。
委員	商店街の状況は、田川市だけではなく全国的な流れで、空き店舗が年々増加しているという状況はどうしようもない。その中で補助金を出して、補助金の使い方は、本当の補助金の目的通りに使うということしか言いようがない。商店街の振興対策を考えれば、商店街自身が将来計画についてどう考えているのかということで、非常に難しい問題で、再開発という話になる。商店街を2つ合併するかなど、もっと大きな問題になると思う。この事業自体は補助金を公平にきちんと使ってほしいという事業だと思うが、本当にそれだけでよいのかと思う。もっと予算があれば、イベントをやって集客をしてほしいと思うが、現状では補助金を公平に使い、その効果も図ってほしい。
小委員長	商店街の現状について、空き店舗を利用してコミュニティビジネスをやろうという取組は、両商店街に見られるとか、補助制度とは関係ないところで何か見られるのか。
担当課	P93で国の連携事業で行っている「福岡県立大学と伊田商店街の連携によるコミュニティスペース設置事業」で、商店街と県立大学が共同して空き店舗を改造し、集える場所としたり、展示、カルチャースクールとして活用したりするようなコミュニティスペースを設置している。
小委員長	ビジネスというより、賑わいの場づくりとしての取組ということと理解した。
委員	<b>【評価内容に関するコメント】</b> 「1 拡充（2）事業の手法、内容の拡充」とした。両商店街ともに勉強学習しているが、そのことが将来的に全体的に共同事業につながるような芽がでてきているというような気がする。それを市としては、今までの補助金を支出して、見守っていくという姿勢でよいのではないか。
委員	<b>【評価内容に関するコメント】</b> 「2 見直し（2）事業内容、手法の見直し、⑤手段の追加、改善、⑥設定目標の見直し」とした。民間と行政の線引きという部分で難しいところがあると思う。田川市として残れる商店街のあり方がどのようなものであるかということを決めて、商店街振興組合と協力して目標を定めるべきではないか。「営業店舗数」が目標になっているが、賑わいを求めるのであれば、店舗数ではなく、どのくらいの交流人口、通行量があるかということを目標にして、その目標を達成するためには、どのような手法が必要かということを検討していくべきではないかと思う。補助金を出すだけでなく、市としての独自の取組、行政にしかできないことを模索してはどうか。例えば、田川市の支所や田川市の機能の一部を商店街に入れると、住民票などもそこから取れる。後藤寺で言えば、西田川高校と後藤寺中学校を統合し中高一貫校にするとバスも電車もあるということで、交流人口が格段に増し、民間にもできることではないか。そのような面を、行政側サイドとしての商店街振興プランとして見ていってはどうか。人が集まるところに商売は成立する。地元に大きな量販店が出来ても自慢しないが、商店街が賑わっていたら自慢する。商店街の振興は、市民の誇りや魅力に関係する部分につながってくると思う。
委員	<b>【評価内容に関するコメント】</b> 「2 見直し（2）事業内容、手法の見直し、⑤手段の追加、改善、⑥設定目標の見直し」とした。商店街振興については、商店街の主体的な取組が一番大事だと思う。行政としては、補助金や情報提供が中心になるのはよく理解できる。効果の検証はきちんとやって、その結果を踏まえた補助金の出し方は、もう少し工夫の余地があると思う。設定目標が「営業店舗数」となっており、現状値や目標値が書かれている

	<p>が、これが適合的なのかは疑問に思う。これが劇的に増えるということは、通常では考えられないので、目標とするところを考え直した方がいいのではないか。例えば、「次の世代の商店主がこれだけ増えた」「中核になるような商店主がこれだけ育った」など、現在の田川がこれだけよくなっているということを表す設定目標を考えたらよいと思う。商店街振興対策だけの話ではないので、田川市として商業全体としての商店街をどうしていくかというビジョンを、もう少し打ち出してほしい。商店街が地元の人に必要だということだけではなく、田川市の顔だと思う。伊田駅において田川市の第一印象を持つので、非常に大きな意味があると思う。そのようなことを考えると田川市のイメージ戦略につながるので、田川市行政として商店街振興、街の振興をどうするかというビジョンをもう少し明確に打ち出してほしい。</p>
<p>委員</p>	<p><b>【評価内容に関するコメント】</b>「2見直し（2）事業内容、手法の見直し、④対象の見直し、⑤手段の追加、改善、⑥設定目標の見直し」とした。今やっているイベントの内容だが、最初始めたころから比べると、随分参加者が減っているような気がする。そこで内容に変化を持たせるというようなことも必要ではないかと思う。田川で何が作られて、何が売られているのか、例えば、赤村の加工所が伊田に来ているが、そのように空き店舗を利用して、事業者が、商店街の中に品物を持ってきて売ってもらうと賑わいを取り戻す。高齢者がバスに乗って遠くに行かなくても地産地消のものが近くで買える。そのような意味で、足が商店街に向いていくということを考えていくと、空き店舗の利用、地産地消のものを多く行政サイドでお願いして来ていただき、店を開くという考え方が必要。行政としての振興について、単に補助金を支出するだけでなく振興するために何をしなければならないのか。そのためには、商工会議所との話し合いを持って、設定をもう一度見直す必要があるのではないか。今のままでは、イベントだけでは人が集まるが、それ以外は人がいないという状況が続くのではないかと思う。</p>
<p>委員</p>	<p><b>【評価内容に関するコメント】</b>「2見直し（2）事業内容、手法の見直し、⑧その他」とした。補助金の使途や効果については、検証しながら、金額的には限界があるため、この程度ということだが、やり方としては効果を図ってほしいということしか言えない。振興対策事業は単に補助金だけの話ではなく、振興対策そのものや使途、組合に対して将来どうするかということについて、支援・協議を始めるべきではないか。その際、産学連携などという考え方もあると思うし、専門のコンサルタントを入れるということも可能だと思う。そのような考え方で、田川市にとって近い将来シャッター通りと言われるように寂れた状態を打破するにはどうすればよいか、田川市に合ったやり方はどのようなものがあるのかということについて、早く協議を始めるべき。</p>
<p>小委員長</p>	<p><b>【評価内容に関するコメント】</b>「2見直し（2）事業内容、手法の見直し、④対象の見直し、⑤手段の追加、改善」とした。伊田、後藤寺両地区の商店街振興に関して、市でしか果たせない役割に特化すべきでイベントは補助対象から外す。担当課も認識しているように、環境整備の部分に補助を絞っていくべきだと考える。商店街の自主的な取組が基本だと考えるので、商店街との話し合いの中で良質な提案がある場合、環境整備を行うには、この金額では限界があるので、補助額の拡充ということもあり得る。イベントを補助対象から外す場合に、伊田、後藤寺両地区に特定しない形、商店街の組合が行うということに特定しない形で、市民団体等が行う活性化に向けたイベント等の開催に対する補助制度を様々</p>

	<p>な課でやっているものを統合するような補助金を全市的に作っていく。なお且つ伊田・後藤寺の組合の提案についても、他の地区、他の団体との提案と公平に評価をして、効果や成果を適切に検証していく。そのことによって、市全体やコミュニティ、各地区の活性化に結びついていくと考える。先程、担当課から商店街が地域のコミュニティづくり、人の結びつきなども含めて機能していくべきだという話もあったが、今の枠組みの中での補助制度では、結びつきにくいのではないかと考えたので、そのように評価した。昨日評価した「シティプロモーション事業」について、ゼロリセットしてゼロから作り直すという評価をしたが、シティプロモーション事業と商工観光課が取り組む事業と密接に連動して、商工観光の振興に資するように地域の団体や市民等が連携をして取組を推進する。そのような中で、伊田や後藤寺の商店街の活力向上にもつながるような芽が見えてくるのではないか。</p>
<p><b>まとめ 小委員長</b></p>	<p>委員から事業を見直した方がよいということで、対象を見直したり、手段を改善したり、現状の取組を続けていくことが重要だという意見が多かった。共通して言えるのは、伊田、後藤寺両地区の商店街の振興というのは、田川市の活性化にとって非常に重要という視点である。振興に資するような取組で、市でしかできないような取組は何かということをやっていくべき。補助事業の場合は、団体の自主的な取組に対する補助が前提だが、自主的に取り組むためのアドバイス、補助金の成果に対する検証をしっかりとってはどうか。</p>
<p><b>担当課</b></p>	<p>このような意見を参考に取組んでいきたいと思う。補助金は限られているので、アイデアなど勉強し、少しでも役に立てるように取組んでいきたいと思っている。人と人、団体と団体をつなげて地域の活性化につなげていきたい。</p>